

平成 30 年度 事業報告・決算報告

I 理事長あいさつ

日頃より、当会の活動にご支援、ご協力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。

平成 30 年度は、新しく介助犬との生活を始めた使用者 1 名と 2 頭目の介助犬と生活を始めた使用者 1 名、計 2 組の介助犬・使用者ペアの誕生を迎えることが出来ました。残念ながら計画を下回りましたが、2 名の使用者が介助犬を伴い活躍の幅を大きく広げる支援が出来たことを嬉しく思っております。

また、聖マリアンナ医科大学病院で勤務犬として活躍したミカの引退にあたり闘病中の子ども達にぬいぐるみを贈るクラウドファンディングを実施し、多くの方々にご支援を頂きました。引き続き当会より貸与した 2 代目勤務犬モリスと認定ハンドラー 2 名による動物介在療法に協力して参ります。

7 月には、公益財団法人 社会貢献支援財団主催の「社会貢献者賞」を受賞しました。役員一人ひとりの介助犬育成普及活動に対する献身的な頑張りが認められたものです。

良質な介助犬育成のため、更に繁殖技術の向上に努めるとともに、介助犬総合訓練センター内にウェルピングルーム(犬の産室)を整備するため、長久手市ふるさと納税によるご寄付を活用させて頂きました。

令和元年度は、社会福祉法人として発足 15 周年、介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～が開所して 10 周年を迎える節目の年となります。今後はさらに、良質な介助犬を安定的に供給出来るよう、犬の繁殖・育成、訓練技術の向上を目指すとともに、組織基盤の強化に努めて参りたいと思います。

皆さまには益々のご支援、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 伊藤 利之

Ⅱ. 平成 30 年度 事業報告

1. 介助犬訓練

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて 2 組の合同訓練を行い、指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

新規入所犬として候補犬 35 頭を確保し、評価及び訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

介助犬への可能性が高いと思われるパピーに対して早期訓練を行った。

一昨年度より開始したパピープログラムに関して継続的なデータ蓄積を行った。

(3) 繁殖、パピー、候補犬としての成犬の導入

① 自家繁殖により 3 回の出産を行い 21 頭のパピーを確保した。当会繁殖犬と他補助犬育成団体繁殖犬との交配によりパピーを確保したほか、国内外補助育成団体から繁殖犬等を導入した。

② 海外補助犬育成団体より凍結精液を導入し、犬山動物総合医療センターにて人工授精を行った。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 22 名に対し、書面による現状把握、訪問による生活状況の確認を行った。新規使用者に対しては月 1 回程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。

② 使用者交流会

使用者同士の情報交換とハンドリング技術の向上を目的とした「使用者の集い」を行った。2020 年東京オリパラ大会に向けて都内会場予定地への公共交通機関アクセス調査を実施した。

(5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 相談・支援

(1) 介助犬希望者への相談・支援

① 介助犬に関心のある障がい者を対象に個別体験会・相談会を実施した。

② 介助犬希望者、待機者に向けて宿泊体験を含む体験入所を実施した。

③ 吉備高原リハビリテーション病院にて出張 相談会を実施した。

3. 補助犬関係団体協力

(1) 補助犬育成団体との連携強化

北海道盲導犬協会、日本盲導犬協会、関西盲導犬協会、東日本盲導犬協会、日本ライトハウスから成犬導入を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

- ① ADI カンファレンス(米国ミネソタ州)に職員 2 名を派遣し、ADI (Assistance Dogs International) の認可団体申請に向けた準備を行った。
- ② Kyno-Logisch を訪問し、繁殖犬候補の導入に向けて情報収集を行った。
- ③ 日本身体障害者補助犬学会による中部国際空港での「車椅子受け入れセミナー」に協力した。

4. 調査研究事業

(1) 各学会への参加、演題登録

- ① 日本身体障害者補助犬学会 第 11 回学術大会にて一般演題発表を行った。
「日本介助犬協会のパピー育成プログラムについて」 訓練部 山口 歩
「障がい児・者がいるご家族へのキャリアチェンジ犬譲渡について(現場報告)」
訓練部 柴原 永佳
「訓練犬のパブリック訓練先への取り組みについて」 訓練部 水谷 悠美
- ② 第 55 回日本リハビリテーション医学会学術大会にてワークショップを開催した。
- ③ 第 21 回日本福祉のまちづくり学会全国大会にて一般演題発表を行った。
「介助犬導入をきっかけとした地域社会における支援体制の構築と育成事業者の役割」
訓練部 遠藤 大輔
- ④ 第 10 回兵庫補助犬研究会にて一般演題発表を行った。
「介助犬使用者が使用しているフードポーチの使用状況調査」
訓練部 福井 誠也

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要な自助具作成のための相談を行った。

(3) 肢体不自由者への相談・支援

全国の福祉機器展にて潜在的なニーズを持った希望者に対して情報提供・相談を行った。

(4) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部より依頼のあった「身体障害者補助犬の訓練・認定の実態に関する調査」に協力した。

5. 地域公益活動

(1) 動物介在療法として、聖マリアンナ医科大学病院への勤務犬貸与

- ① ハンドラー医師・看護師へのハンドリング指導を行った。
- ② 勤務犬ミカの引退식을 1 月 31 日に開催した。
- ③ 代替勤務犬としてモリスの養成を行い、新規ハンドラー 2 名への研修及び認定を実施した。

(2) 障がい者、障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡

2 家庭に対してキャリアチェンジ犬を譲渡した。

(3) その他長期療養患者、社会適応障害児童等に対する AAA /AAT 導入に対する検討、監修および実施協力

PR犬による動物介在活動を聖マリアンナ医科大学、箱根病院、川崎市立多摩病院、野のすみれクリニックで実施した。

(4) 障がい児向けの犬とのふれあい会等の開催

1月12日に横浜ラポールにて障がい児向けふれあい会を開始した。

(5) 家庭犬飼育の質の向上を目的とした、ボランティア対象の講習会及び交流会

犬飼育委託ボランティア、センターボランティア、キャリアチェンジ犬引き取りボランティアに対して6回の講習会を開催した。4月14日に東京都内でキャリアチェンジ犬引き取りボランティア交流会を開催した。

6. 普及啓発

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2018」を開催した。

・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、「見る、知る、感じる、そして楽しむ」をコンセプトに愛・地球博記念公園・地球市民交流センターにて開催した。

・感謝の集いを開催し、個人・法人会員、支援・協力企業、ボランティアに対して、3組の介助犬ペアが誕生したことを報告した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
毎月第2土曜日 (5・3月を除く)	一般見学会	10	589名 (総数)	センター
7月21日(土)	オープンキャンパス	1	37名	センター
7月25日(火)	子供向け見学会	1	51名	センター
7月29日(日)	介助犬教室	1	25名	横浜市スポーツ 医科学センター
8月5日(日)	介助犬教室	1	13名	ダッドウェイ
9月22日(土)	介助犬とふれあおう	1	950名	ららぽーと横浜
3月2日(土)	オープンハウス	1	670名	センター

③ はたらくワンワンランド (JA共済連主催)

41件を実施した。

(岩手県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、愛知県、三重県、岡山県、広島県、愛媛県、高知県、熊本県、沖縄県 以上17都府県)

④ イベント・講演・講義

・イベント・講演会・・・205件

※日本赤十字社総会の講演

※第一回地域共生社会推進全国サミット in ながくて、に於いてデモンストレーションとブース出展を行った。

- ・ 講義・・・下記の大学や専門学校にて行った。
 - ヤマザキ看護大学 アシスタンスドッグ論
 - 東海大学医学部
 - 愛知医科大学医学部・看護学部
 - 横浜市立大学医学部
 - 帝京科学大学アニマルサイエンス学科
 - 神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科
 - 中部大学理学療法学科・作業療法学科
 - 愛知県厚生農業協同組合連合会加茂看護専門学校
 - 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科
 - 名古屋外国語大学現代国際学部
 - 中部大学応用生物学部管理栄養学科
 - 大阪保健医療大学

- ・ 訓練センター視察・・・ 66 件
- ・ 職場体験学習の受け入れを行った。

(2) デモンストレーター養成

- ・ デモンストレーター養成講座を 4 回開催し延べ 28 名が参加した。
- ・ デモンストレーター練習を 7 回行った

(3) 普及啓発街頭募金活動

- ① のべ 40 回の街頭募金啓発活動を行った
- ② 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動に協力参加した。

(4) 募金箱設置

募金箱設置数は 1,895 個。

(5) PR 犬の育成・訓練の実施

PR 犬 8 頭の育成・訓練を行った。

(6) ボランティアの確保

年 4 回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

個人会員：2,059 件（前年度 2,049 件） 法人会員：138 件（前年度 133 件）

(8) 『ほじょ犬の日』イベント

『身体障害者補助犬啓発イベント』に参加しデモンストレーションを行った。

7. 広報活動

(1) マスコミ対応

以下の取材を受けた。

内 訳	件 数
新聞掲載	
介助犬使用者関連	21 件
ご支援関連	14 件
協会関連	17 件
啓発イベント	30 件
雑誌・広報紙掲載	
介助犬使用者関連	4 件
ご支援関連	10 件
協会関連	2 件
啓発イベント	3 件
テレビ放送	
介助犬使用者関連	5 件
協会関連	14 件
ラジオ放送	
協会関連	3 件
合 計	118 件

(2) 広報物の作成

リーフレットは、新しい情報に更新し 10 万部を増刷した。また、平成 29 年度のあゆみ（新聞記事掲載集）を制作した。

(3) 会報・HPの制作

会報を通じた寄付プロジェクトを企画し実施した。
ホームページから寄付を行う支援者が増加した。

(4) ツイッター・フェイスブック等の活用

更新を頻繁に行いフォロワーや「いいね」数を増やし介助犬の啓発を行った。
フェイスブック：「いいね」…9,942 件 ツイッター：フォロワー …3,047 件
Instagram：フォロワー …2,160 件

(5) リハビリテーション関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

以下の学会に参加した。

- 日本理学療法学術研修大会
- 日本心身医学会総会学術大会
- 日本リハビリテーション医学会学術集会
- 日本身体障害者補助犬学会
- 日本義肢装具学会

(6) リニモとの協働

リニモ駅長に就任している PR 犬が、リニモイベントに参加した。

(7) 成年企画

年間を通して成年にちなんだ企画をホームページから展開した。

8. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

平成 30 年度認定者在住の岡山県、岐阜県より、介助犬貸与に対して給付された。

都道府県名	補助金額
岡山県	1,944,000 円
岐阜県	1,500,000 円

(2) 啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として 15 万円が給付予定。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として 30 万円が給付された。

(3) 助成団体・事業

名称	金額	事業内容
全国生活協同組合連合会 全国労働者共済生活協同組合連合会	300 万円	障害者の自立と社会参加のための介助犬普及・啓発活動「～重度肢体不自由者が介助犬を伴って交通機関等を利用する実例集作り～」
毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金)	20 万円	介助犬候補のパピー育成プログラム
愛知県共同募金会	34 万円	介助犬希望者の介助犬体験入所・合同訓練における訓練施設の宿泊設備充実および訓練犬の訓練・管理のための犬舎設備拡充
ボーイング社	74 万円	海外からの繁殖犬導入費
清水基金	270 万円	施設整備等寄付として、福祉車両導入
中部ウォーカーソン	60 万円	介助犬の繁殖技術向上へ向けた海外からの講師招聘
長久手市ふるさと応援活動支援事業	46 万円	ウェルピングルームとしても使用出来る訓練室の改修費用

(4) 団体・企業等(使途指定寄付)

名 称	金 額	内 容
デンソーはーとふる基金	35 万円	介助犬使用者・希望者が施設利用の際に使用する非常通報用ボタン設置工事
株式会社ミキ	51 万円	車椅子 4 台
リコー社会貢献クラブ	30 万円	①研修ホールの天吊型プロジェクター設置費用②繁殖事業費等の一部として